

登録コード	HM133900	開講年度	2026			
授業題目	分子病理学論文演習				担当教員	藤井 千文 他
英文授業名	Thesis Seminar in Molecular Pathology				副担当	山中 仁木・川久保 雅友
単位数	2	講義期間	不定期	曜日・時限	集中・不定期	対象学生
講義室			授業形態	演習	備考	
信大コンピテンシー	該当					
(1)授業の達成目標/Course objectives	ディプロマポリシー・授業で得られる「学位授与の方針」要素 ⇄				(授業の達成目標)	
	2026HM医学分野初, 2025HM医学分野初, 2024HM医学分野初, 2023HM医学分野初					
	【専攻】医学または保健学の研究に対する世界標準の専門分野における深い知識・卓越した技能 ⇄				分子病理学に関する学術論文を読み、その内容を第3者にプレゼンテーションすることができるようになる。	
	【専攻】医学・保健学研究において基礎・応用・臨床の枠を越え、課題の本質を見抜き解決方法を見出す洞察力 ⇄				医学データベースを用いて医学論文を検索することができるようになる。	
(2)詳細 /Detailed information	医学データベースを用いて優れた医学論文を検索する能力を習得する。また、分子病理学に関する学術論文を読み、その内容を第3者にプレゼンテーションする能力を身につける。					
(3)授業の概要 /Overview of course	医学データベースを用いて優れた医学論文を検索する能力を指導する。また、分子病理学に関する学術論文の読解力と、その内容を第3者にプレゼンテーションする能力が身につく様に指導する。					
(4)授業計画 /Course plan	(第1～5回 藤井千文) 抄読会形式で、医学論文を批判的に読む能力、その内容を要約して判りやすく紹介できる能力を習得させる。 (第6～10回 川久保雅友) 抄読会形式で、医学論文を批判的に読む能力、その内容を要約して判りやすく紹介できる能力を習得させる。 (第11～15回 山中仁木) 抄読会形式で、医学論文を批判的に読む能力、その内容を要約して判りやすく紹介できる能力を習得させる。					
(5)成績評価の方法・基準 /Grading/evaluation method/evaluation criteria	成績評価の方法：第16回の授業終了時に、分子病理学に関する学術論文の一つを選び、その論文内容の要約と科学的意義等に関するレポート提出を求める。 成績評価の基準：(i) 論文を適切に要約でき、(ii) その論文の科学的意義を説明でき、(iii) その論文の限界についても説明でき、(iv) その論文の関連領域の研究を説明でき、(v) その上で自分の見解を提示できる、の5点から評価し、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している(秀)」。(i) から(v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある(優)」。4項目までできていれば「やや上にある(良)」。3項目までできていれば「水準にある(可)」と評価する。					
(6)履修上の注意・事前事後学習の内容・テキスト・教材・参考書/Notes/Prep and review work/Textbook(s)/Reference work(s)	学会出張などの致し方ない場合を除き、欠席することなく出来る限り出席すること。 抄読会の開始前までに各自が選択した医学論文を熟読し、内容を把握しておくこと。また、抄読会後には教員からのコメントをもとに再度熟読すること。					
(7)質問,相談への対応/Questions and requests for advice	各担当教員に直接連絡を取ること。					
(8)授業の形式 /Course format	輪読会形式で行う。適宜、PCを使用する。					